

地域リハ支援センターの取組内容（2）

| | 東京都リハビリテーション病院（区東部） | | 大久野病院（西多摩） | | 永生病院（南多摩） | |
|---------------------------------------|---|--------------------------------------|--|-------------------------------|---|-----------------------------------|
| (1) 26年度に特に力を入れた取組 | 【取組内容】 | 【成果】 | 【取組内容】 | 【成果】 | 【取組内容】 | 【成果】 |
| | ① リハビリ多職種連携研修会 | ① 医療・福祉・保健・介護・行政等を対象とした研修会開催 | ① 介護支援専門員に対する支援：地域リハ研修会 | ① 訪問リハ連絡会の地域で活躍するスタッフを講師に招き開催 | ① 脳卒中地域医療連携パス協会第4回市民公開講座 | ① 「知って納得！脳梗塞という病気のお話」等 参加:1027名 |
| | ② - | ② - | ② リハスタッフ組織化支援：訪問リハ連絡会、地域リハ講演会 | ② 定例会を2か月毎に開催、年1回講演会実施 | ② 南多摩医療と介護と地域をつなぐ会第10回フォーラム | ② 「地域包括ケアって何？つながれば生まれる地域力」参加:205名 |
| (2) 当初計画に対する26年度の取組の自己評価や今後の課題（全体） | ○リハビリ多職種連携研修会の全ての会でグループワークを実施し、事業所間の連携など横との繋がりを持てる場として効果 ○アンケート結果「グループワークをする中で、多職種の意見を伺うことができ、様々な見方があることを学んだ」との意見多数 ○課題は、医師や看護師の参加が少ない。27年度は、各医師会から医療機関へ周知することで改善を図る。 | | ○技術向上のための研修会等は概ね計画とおりに実施 ○地域の関係機関との連携強化を目標に掲げ、医師会との連携を強化、歯科医師会とは西多摩医療福祉連携研究会研究発表会への支援等を行い継続して良好な関係を構築している。薬剤師会とも連携が図れるようになり、次年度以降における連携強化を約束 ○地域包括ケア時代を迎え、各市町村の障がい福祉課や介護保険課、地域活動支援センターや地域包括支援センターとも意識して連携が図られ、27年度は地域包括ケアシステム推進のためにも寄与 | | ○地域包括支援センターや保健福祉センターなどからの介護予防事業の講師依頼を多く受けた ○ケアマネジャーを対象に研修会を八王子市以外に稲城市で開催 ○脳卒中地域連携パス協会などのリハ関連団体への支援 ○第3回南多摩福祉機器展では利用者・家族、支援者・サービス提供者、地域産業、学術研究機関間の交流 ○第10回フォーラムでの市民公開講座等は、地域包括ケアを市民とともに考える貴重な機会となった。 | |
| | ○3区における地域リハ提供体制の充実と強化 ①かかりつけ医へのリハビリテーション知識・技術情報提供 ②療法士や介護支援専門員を始めとする地域リハを支える人材の育成と連携（リハビリ多職種連携研修会等を実施）を当センターが中心となり、積極的に実施 | | ○同職種による交流会や多職種スタッフが参加する懇談会等を開催 ○医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健所、市町村、地域包括支援センター等との協働及び連携し、在宅医療・介護連携推進事業や地域支援事業への支援を行い、住み慣れた西多摩で高齢になっても、障害があっても、その人らしい暮らしを長く続けることができるよう寄与 | | ○リハ関係者連絡会「南多摩医療と介護と地域をつなぐ会」を母体に、意見交換や情報共有を行い地域リハ推進活動の企画・運営 ○新人セラピスト教育研修会、ケアマネジャー研修会、介護予防促進のための研修会などを開催 ○地域リハへの理解を促すために関連団体間の連携を推進 | |
| | 【取組内容】 | 【目標】 | 【取組内容】 | 【目標】 | 【取組内容】 | 【目標】 |
| ① リハビリ多職種連携研修会の充実 | ① 27年度はテーマは「認知症」をシリーズ化して実施予定 | ① 西多摩地域リハビリテーション協議会（仮称）の設置 | ① リハビリテーション提供体制に係る協議会を開始 | ① 新人セラピスト教育研修会 | ① 若手PT・OT・ST・看護師・介護職等の知識・技術の底上げ | |
| ② 墨田区訪問リハビリテーション連絡会の組織化 | ② 地域のリハスタッフとの連携や地域リハの普及・啓発 | ② 西多摩リハビリテーションスタッフ連絡会（仮称）の開催 | ② 地域の様々な機関のリハスタッフによる連絡会を開催 | ② 認知症になっても安心できる町づくりのための講演会 | ② 講演会によりリハ関係者及び一般市民に対し理解を深める | |
| ③ 墨田区在宅リハ支援事業（在宅リハサポート医事業）対象拡大 | ③ 無料リハサービスを提供するシステムの構築を図る。 | ③ 医師へのリハビリテーションの理解促進 | ③ 医師の参加を中心としたリハ研修会を開催、リハの理解促進 | ③ 南多摩医療と介護と地域をつなぐ会第11回フォーラム | ③ 市民公開講座等により、地域包括ケアのための基盤づくり | |
| (1) 26年度に特に力を入れた取組 | 【取組内容】 | | 【取組内容】 | | 【取組内容】 | |
| | ① 講演会、医療従事者研修、講習会 | | ① リハビリテーション関連職種向け研修会 | | ① 幹事会の開催 | |
| | ② 患者家族支援講座 | | ② リハビリテーション関連職種育成事業 | | ② 市民交流会、技術研修会の開催 | |
| (2) 当初計画に対する26年度の取組の自己評価や今後の課題（全体） | ○講演会、講習会等の学習機会の提供に対して、地域の関連職種の多数参加 ○参加者の地域に偏りがあり、圏域全体に対する広報・周知が不足 | | ○概ね計画したことが実行できた。 ○研修会等を通して、地域のリハ関連職種と顔の見える連携をとれるようになってきた。 ○計画した事業はほぼ軌道に乗っている。 ○センターの認知度は低く、東京都の事業という認識は低い。 ○今後の課題としては介護予防事業へのアドバイザー派遣等を念頭に考えると、地域医師会と自治体に当センターの存在意義を認知してもらうことと連携を強化していくことが挙げられる。 | | ○市民交流会の実施（地域包括ケアシステムの構築に向けて） ○技術研修会の実施（典型事例から学ぶ！摂食嚥下障害のリハビリテーション、脳卒中片麻痺患者の歩行改善のための姿勢コントロールへのアプローチ） ○脳卒中読本の企画と執筆依頼 <課題> ○脳卒中読本の編集を行い、平成28年3月発行を目指す。 | |
| | ○圏域に居住する住民ならびに勤務する医療従事者とリハ関連職種従事者へのリハビリテーション知識の普及と、地域におけるリハビリテーション提供体制の支援を推進 | | ○地域で働くリハ専門職種へ講演会・症例検討会を通じて教育 ○介護支援専門員向け講習会、地区別ケース検討会等を通じてリハビリテーションの知識・技術教育 ○脳卒中連携パス病院と在宅部門や自治体との連携強化のため情報交換会の開催 等 | | ○地域リハビリテーション支援センターとして協力施設及び5市と連携し、リハビリテーションに携わるセラピストや介護福祉専門員の知識・技術等の向上を図ると共に、地域全体の医療・介護リハビリテーションの連携体制の強化を図る。 | |
| | 【取組内容】 | 【目標】 | 【取組内容】 | 【目標】 | 【取組内容】 | 【目標】 |
| ① リハビリテーションマップ更新 | ① ニーズに合わせ、サービス提供内容の詳細なデータ等を掲載等 | ① 地域で働くリハ専門職種へ講演会・症例検討会を通じて教育 | ① 11月症例検討会・2月講習会の開催 | ① 市民公開講座の開催 | ① 4/25開催済み | |
| ② 広報・周知方法の改善、連携強化 | ② 圏域全体に活動内容を周知、関連施設等との連携強化 | ② 地域医師会のかかりつけ医等へリハ連携強化のため情報交換会 | ② 各市医師会との情報交換会の開催 | ② 脳卒中読本の作成（編集） | ② 平成28年3月発行を目途とする | |
| ③ 症例発表会・講演会・研修会の開催 | ③ 圏域全体のリハ関連職種や住民に学習機会等を提供 | ③ 都理学療法士協会・作業療法士協会北多摩ブロックとのリハ支援体制の強化 | ③ 連携強化のための話し合いの開催 | ③ 地域包括ケアシステムを演題とした市民交流会の開催 | ③ 円滑な開催を目標 | |
| (3) 27年度の取組方針（全体目標） | 【取組内容】 | | 【取組内容】 | | 【取組内容】 | |
| | ① リハビリテーションマップ更新 | | ① 地域で働くリハ専門職種へ講演会・症例検討会を通じて教育 | | ① 市民公開講座の開催 | |
| | ② 広報・周知方法の改善、連携強化 | | ② 地域医師会のかかりつけ医等へリハ連携強化のため情報交換会 | | ② 脳卒中読本の作成（編集） | |
| ③ 症例発表会・講演会・研修会の開催 | | ③ 都理学療法士協会・作業療法士協会北多摩ブロックとのリハ支援体制の強化 | | ③ 地域包括ケアシステムを演題とした市民交流会の開催 | | |